

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名（かがやき特別支援学校あすなろ分校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○三重県立子ども心身発達医療センター（以下、医療センター）の児童精神科病棟と連携し、児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育の推進に努め、病弱と発達障がい支援のセンター校として県内の病弱教育のコーディネートを担う学校
(2)	育みたい児童生徒像	○思いやりと優しい気持ちをもち、自他のいのちを大切に子ども ○確かな学力と社会性を身につけ、生活の中で生かそうとする子ども ○友だちと助け合い、知恵を合わせて課題を解決しようとする子ども
	ありたい教職員像	○医療センターとの連携を密にし、病弱教育と発達障がい支援の専門的な知識を有し、共感的まなざしをもって、授業改善に積極的に取り組んでいる。 ○本県の病弱教育と発達障がい支援を軸とした特別支援教育の推進における自分のポジションを意識し、関係機関や同僚との協働を通してキャリアアップに努めている。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><児童生徒> 毎日元気に登校ができ、学習や体験活動を通して楽しい学校生活を送りたいと願っている。</p> <p><保護者> 治療後の復学に向けて、児童生徒の実態に合わせた丁寧な指導が行われることを望んでいる。</p> <p><病気の児童生徒が在籍する小中学校（前籍校）> 支援情報の共有や具体的な助言等の支援を期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<p>連携する相手からの・期待</p> <p><保護者> 復籍時等に学習進度で遅れないこと。</p> <p><前籍校> 治療後の円滑な復籍。</p> <p><医療センター> 学校生活の情報共有</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><家庭> 見守りや教育活動に対する理解と協力。</p> <p><前籍校> 支援情報の共有。</p> <p><児童生徒が入院する病院> 医療情報等の共有と緊密な連携</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○かがやき特別支援学校あすなろ分校として校名変更や統合による再編が行われたものの認知度は低いと思われる。広報活動の検討が必要である。</p> <p>○前籍校への復籍時に本人に対する情報提供とともに小中学校の支援力の向上につながる取組を進めることが必要である。</p> <p>○退院後の児童生徒の状況を丁寧に把握し効果的・継続的に取り組む活動内容を整理する必要がある。</p> <p>○児童生徒にとって多くの仲間と共に過ごすことは大切なことである。同校舎内にある草の実分校との合同行事を積極的に取り入れていくことを検討する必要がある。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○児童生徒の病状や一人ひとりの学習状況、前籍校で使用されている教科書等様々である。多様な教育的ニーズに応えるために丁寧な実態把握と柔軟な対応を行う必要がある</p> <p>○児童生徒の前籍校復籍に向けて、相手校との綿密な連携を進めながら細やかな支援を行う必要がある。</p> <p>○発達障がい支援のセンター校として、医療と連携して教育相談や地域支援の体制を構築し、支援情報の提供を行う。</p>	
	学校運営等	<p>○かがやき特別支援学校本分校3校と隣・併設する病院の多職種の専門職等と連携した「チームかがやき」の機動的支援体制を構築する必要がある。</p> <p>○全教職員の意思統一や情報共有を進めるとともに3部制の校務運営組織の円滑な運用により風通しの良い職場環境づくりを進めていく必要がある。</p>	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○学習アセスメント等に基づく個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成と効果的な運用をもとに、継続的な指導改善を行うとともに支援情報の引継ぎを充実し円滑な前籍校復学籍及び進学支援に取り組む。</p> <p>○医療センターの療育方針に沿った自立活動の内容についての検討を進める。</p> <p>○ユニバーサルデザインの授業改善に取り組み、発達障がい支援のセンターオブセンターとして研修会等を通して地域支援に取り組む。</p>
学校運営等	<p>○かがやき特別支援学校本分校3校によるスケールメリットを生かし、医療連携を含めた3校連携による効率的な校務運営組織を構築する。</p> <p>○教職員が自ら学び生き生きと仕事ができ、達成感や充実感を共有できる風通しの良い職場環境と総勤務時間の縮減に取り組む。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習支援の構造化及び支援情報の効果的な引継ぎの検討	<p>(1) 学習アセスメント等に基づく指導計画及び個別の教育支援計画の様式を確立する。 【活動指標】 定期的な検討会の開催 【成果指標】 取組評価アンケートにより、「主体的に取り組めた」と回答した教員の割合：80%以上</p> <p>(2) 個別の指導計画及び個別の教育支援計画等の「かがやきファイル」(パーソナルカルテ)を活用した効果的な前籍校への引継ぎ方法を検討する。 【活動指標】 定期的な検討会の開催 【成果指標】 取組評価アンケートにより、「効果的に運用できた」と回答した教員の割合：80%以上</p>	<p>・ 個別支援に関わる書類の記入マニュアルを作成した。 【アンケート結果】 約94%</p> <p>・ 転籍時に本人の学習状況や指導の手だて等を記載した引継ぎ文書を作成し、関係者会議で相手校と共有した。 【アンケート結果】 約90%</p>	◎
ユニバーサルデザインの授業の研究推進	<p>(1) 新施設を活かした学習活動及び学校生活のあり方を検討する。 【活動指標】 検討会の実施回数6回以上 教育課程の見直し改善件数6件以上 【成果指標】 取組評価アンケートにより、「効果を実感できた」と回答した教員の割合：80%以上</p> <p>(2) ユニバーサルデザインの授業の改善のため、授業研究と研修を進める。 【活動指標】 定期的な検討会の開催 視覚化教材の開発 授業研修会の開催 【成果指標】 取組評価アンケートにより、「改善が実感できた」と回答した教員の割合：80%以上</p>	<p>・ 児童生徒の実態に即した教育課程の見直しを行った。 【アンケート結果】 約12%</p> <p>・ H30年12月に実践報告会として普段の授業内容のエッセンスをまとめて一般公開した。 【アンケート結果】 約84%</p>	※

改善課題

- ・ 個別の指導計画等の作成にかかる学習アセスメントについて、読み書き障がいの可能性のある児童生徒に対するテストバッテリーとして読み書きスクリーニング検査 (STRAW-R) を試行的に実施した。今後は、校内研修等を実施することにより、教員全員が本検査を有効に活用できるようにすることが必要である。
- ・ 児童生徒の実態に合わせて効果的な学習活動ができるように教育課程の見直しを行ったが、全教員が参画するまでに至らなかった。次年度は新しい教育課程の下、教育活動を実践し、児童生徒への学習効果などを検証することが必要である。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
センター的機能の構築	<p>(1) 医療センターと連携したセンター的機能を構築する。 【活動指標】 医療連携課・地域支援課との定期的な情報交換 入退院調整会議への参画 教育ケースマネージャーの役割の明確化 【成果指標】 取組評価アンケートにより、「効果を実感できた」と回答した教員の割合：80%以上</p> <p>(2) 本校（緑ヶ丘校）及び草の実分校と連携したセンター的機能を構築する。 【活動指標】 地域支援及び復籍支援の活動内容の検討 【成果指標】 取組評価アンケートにより、「主体的に取り組めた」と回答した教員の割合：90%以上</p>	<p>・教育ケースマネージャーが定期的に医療連携課に駐在し、電話相談等の対応を行った。 【アンケート結果】 約77%</p> <p>・3校のコーディネーターが協力して地域支援を実施した。 【アンケート結果】 約29%</p>	◎
医療センター・分校との緊急時の対応	<p>(1) 危機管理意識の醸成とリスクマネジメント向上の取組を進める。 【活動指標】 危機管理マニュアルの見直し 避難訓練の実施（両分校・センター合同） コンプライアンスミーティングの実施 【成果指標】 取組評価アンケートにより、「主体的に取り組めた」と回答した教員の割合：80%以上</p>	<p>・医療センターと両分校参加の第2回合同避難訓練を実施した。 ・センター分校防災危機管理関係者会議を創設し、災害時等の対応を検討した。 【アンケート結果】 約81%</p>	※
校務運営の改善・働きやすい職場づくり	<p>(1) 教職員一人ひとりの勤務を見直し、生き生きと仕事ができる環境づくりを推進する。 【活動指標】 リフレッシュデーの導入（月1回） 会議の効率化（60分以内） 時間外労働時間の縮減（昨年度比3%減） 休暇取得日数の増加（昨年度比1日増） 【成果指標】 取組評価アンケートより、①「仕事にやりがいを感じている」と回答した教員の割合：90%以上 また、②「改善が実感できる」と回答した教員の割合：80%以上</p>	<p>・小中学部毎に1回/月、リフレッシュデーを設けた。 【アンケート結果】 ①約35% ②約77%</p>	※

改善課題

・センター的機能による地域支援については、特別支援教育コーディネーターを中心に本校（緑ヶ丘校）及び草の実分校と協力して実施を進めているが、実際に3次支援に上がってくるケースは少なかった。今後は、県教育委員会の「三重県立特別支援学校センター的機能ガイドライン」を基に小中学校への啓発活動を進めるとともに、医療センターとの連携を進め、県立特別支援学校の特別支援教育コーディネーターと共に小中学校に在籍する入院待機及び診察待機の児童生徒への具体的支援を実施することが必要である。

・分掌業務を見直し、教員間の業務量の差を軽減するとともに担当する分掌を年度ごとに入れ替えることで、学校内の分掌業務について広く知識が持てるようにすることが必要である。2回/月以上リフレッシュデーを設定することが必要である。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>・地域の小中学校には少し対応を考えれば学校に適應できる子どもが医療センターの診療待ちになっている。地域の学校の教員が気軽に依頼・相談できるよう、医療センターとかがやき特別支援学校、そして地域の特別支援学校とが連携し、小中学校への支援をより充実させることが必要である。</p>
----------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・かがやき特別支援学校開校後、あすなろ分校と医療センター間では、協力体制ができているが、緑ヶ丘校と草の実校を含めた3校では、ばらばらな印象を受ける。ひとつの学校として子どもが行き来できる等、学校間での柔軟な対応について検討することが必要である。 ・かがやき特別支援学校の役割として学生ボランティアの活用など、地域の資源を利用しながら、人材の育成を図ることが必要である。
--	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度新たに編成した教育課程の下、教育実践を行い、定期的に教育課程の見直しを実施する。 ・授業実践報告会を次年度も開催し、あすなろ分校が行っている教育内容を小中学校へ情報提供するとともに、教職員の授業研究や教材作成などの研鑽に努める。 ・学習障がいのある児童生徒の理解を深めるためにアセスメントツール利用の習熟を図る。 ・児童生徒間のトラブルを未然に防ぐことができるよう、病棟との連携を一層深める。また、いじめが発生した場合には、病棟、学校が一体となって早急に対応に当たる。 ・第2回文化祭開催に向けて、草の実分校とあすなろ分校の教員及び児童生徒の交流をより積極的に進める。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校のセンター的機能としてかがやき特別支援学校が担う3次支援について、医療センターと連携しながら小中学校へ緑ヶ丘校と共に積極的な働きかけを行う。 ・介護等体験や学生ボランティアの活用を検討し、人材育成に努める。 ・本年度立ち上げたセンター分校防災危機管理関係協議会を定期的に開催し、三重病院、本校（緑ヶ丘校）と連携して本地域での防災対策を検討する。 ・学部ごとに2回／月以上の定時退校日（リフレッシュデー）を設定する。